

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200279		
法人名	ヒューマンライフケア(株)		
事業所名	ヒューマンライフケア大倉湯GH		
所在地	札幌市東区北23条東5丁目5-21		
自己評価作成日	平成25年2月2日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経験年数の短いスタッフが多い中、昨年は、看取り介護にも携わることができ、少しずつ知識や技術を身につけてきました。そんな中、入居者と職員が支え合いながら毎日の生活を送っています。入居者の入れ替わりもあり、介護度の開きも小さくなくて、今までにはなかなか実施できなかった外出行事など、積極的にとり組んでおります。これからも、穏やかかつ、ハリのある生活の支援に力を入れて参ります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0190200279-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階		
訪問調査日	平成 25年 2月 15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に、地域の中で普通の暮らしをゆっくりと楽しく過ごしてもらえるように支援する理念を職員は理解し、その実践に努めています。このため、家族から管理者や職員は気さくで優しく、家庭的雰囲気のあるホームであると利用者の暮らしぶりに感謝し、親身なケアサービスに専念する職員を高く評価をされています。ホーム所在地の町内会は、行事も少なく連携が難しい地域ですが、町内会のお祭りには家族ぐるみで参加したり、中学校の体験学習受け入れや地域の防災訓練に職員を参加させるなどホーム側の努力で、地域の一員としての日常的交流がなされています。ホームの建物は、開設後10年目を迎えましたが職員の努力で館内の清潔さを維持しており、トイレ内の収納棚もカーテンで仕切るなど随所に気配りが感じられます。また、個人情報の保護に配慮した支援に努めており、管理者や職員による質的レベルアップへの努力が伺えるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に、理念・教育を行っている。いつでも確認できるように、事務所内・玄関に理念を貼り出している。一人一人を尊重し、入居者がゆったり生活ができるように環境を整えている。	運営法人共通の理念と地域との連携を含むホーム独自の理念を持ち、玄関や事務所に掲示しています。職員入所時には理念を説明し、ミーティングでも時には理念を意識したサービスのあり方を確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に夏まつりに毎年参加し、地域の中学生の職場体験の受け入れを行っている。近隣の方に受け入れられるよう、積極的に挨拶するなどしている。	町内会夏祭りに利用者と家族が共に参加して楽しみ、中学校の体験学習受け入れや地域防災訓練への職員参加などホーム側からの努力もあって、周辺住民と日常的挨拶も交わされるなど地域との交流を積極的に行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方・家族には運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解を深める取り組みをしている。中学校職場体験の場でも認知症の理解を深めてもらえるように話をしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のご案内を全家族に配布している。運営推進会議を活かして、入居者状況や、運営状況を説明している。	町内会、民生委員、家族の参加を頂きながら定期的に開催し、ホーム運営の報告事項や意見交換を行っています。会議議事録も全家族へ送付して、会議の内容を理解していただくよう努めています。	会議への外部参加者が少なくなる傾向にありますので、町内会メンバー、周辺事業所、教育関係者など広範囲に参加を呼びかけて増えることを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員には毎回運営推進会議に参加していただいている。必要に応じて入居・退去時の相談を相互に行っている。	管理者は、行政担当者や地域包括支援センターと相談や情報交換などを随時行い、保護課担当職員もホームへ来所時に話し合いをして行政との協力関係構築に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で情報を共有し、拘束しないケアを行っている。また、玄関の施錠も夜間のみで、日中は施錠などをせずに、見守り重視でケアを行っている。	身体拘束のないケアのマニュアルや資料を整備し、ミーティング等でも事例を含めた話し合いをしています。現在は関連外部研修への職員派遣も計画中です。玄関の施錠は夜間のみで、内部から入口付近が見やすい内部構造のため職員が常に利用者の出入りを見守りしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見逃されないように、職員間で情報の共有を行っている。また、常に入居者の言葉に耳を傾けるなど注意をしている。職員同士、気が付いたことは話し合うようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会はあるが、事業所内での研修等はずっとできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に関しては、管理者が中心になって、家族に説明し、納得してうえで入居していただいている。また、解約や変更事項がある際には文書や口答での説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や要望を相談できるように相談窓口を設置している。相談窓口を設置していることを契約書に設置している。いつでも意見や要望を反映できるように玄関に、意見箱を設置し、こちらからも声をかけるようにしている。	家族への電話や送付書類、ホームへ面会に訪れた際などに利用者の様子を伝え、家族からの意見や要望も把握するようにしています。家族からの意見や要望は、職員間の話し合いやミーティングで相談してホーム運営に反映させています。	ホームにおける利用者の暮らしぶりを伝える写真入りのホーム便りは家族に喜ばれますので、利用者一人ひとりの個人別お便りを含めて作成し、送付することが望まれます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回ミーティングを行い、その場にて意見などを聞いている。また、適宜個人面談などを行っている。	管理者や計画作成者は、月2回開催しているミーティングや日常業務の中で職員からの意見や提案を聞く機会があります。また、管理者は、随時、職員と個人的に話し合う場を設けて相互の意思疎通をはかるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務中の様子や姿勢を観察し、必要に応じて、適宜個人面談などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修や勉強会の機会は足りていないが、施設内に、外部研修の予定を張り出し、受けた研修がある際には、すぐに受講可能な体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の会議に参加し、ネットワーク作りなどの努めている。また、交流のある他事業所や、居宅支援事業所があり、必要に応じて連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より、積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を築くよう努め、声掛けとともに傾聴し、少しずつ慣れ親んでもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、困っていること・不安なことを聞き入れ職員間で共有し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が中心となり、本人・家族から情報をうけ、現状に応じより良い生活が送れるように、他のサービスも含めて現在必要とされている支援をうけられるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のしたいことや出来ることを重視しながら、ケアを行うように努めている。 また、出来ること・したいことを確認しながら、手伝いなどをしてもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日常を理解していただき、本人の想いを知って頂けるように支援している。家族が参加しやすい環境にも心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人が面会などに気兼ねなく来れるように、面会時間などは設定していない。また、面会時には、気兼ねなく過ごせるように配慮している。	利用者に、馴染みの場所への外出希望が殆ど無い状況ですが、要望があればできるだけ職員が付き添って外出支援するようにしています。面会などの外来者へも歓迎しておやつを提供したり、一緒に食事をすることも可能なため、非常に訪問しやすいと家族から好評を頂いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションが円滑にいくように、座席の配慮などをするとともに、1階・2階の合同レクリエーションを開催するなど入居者が孤立しないような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまでの関係性を大切にしている。すでに退去して入居者のご家族の訪問や手紙のやり取りもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望や意向を聞きながらケアを行っている。一日の流れは決まっているが、入居者には押し付けずに入居者の希望や意向に沿ってケアを行っている。	現在の利用者の多くは、職員との意思疎通ができていますが、意向等の把握が困難な時は、家族や職員間で相談し、利用者の希望に沿うサービスに徹するよう努力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時より、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状を把握し、記録へ記載し、常時スタッフ間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフでモニタリングを行い、モニタリング・日々の記録などを基にカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の状態について毎月、全職員でモニタリングを実施し、3ヵ月毎のカンファレンスで家族からの要望等も聞きながらケアプランの見直しをしています。見直したケアプランは、カンファレンス、ミーティング等で全職員に周知徹底して共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・介護記録・健康管理表などを用いて、情報を共有している。また、申し送りをし、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるように、職員は日頃から創意工夫を行っている。隣接するデイサービスより誘われ、デイサービス利用者との交流もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニ・スーパー・公園、隣のデイサービスに遊びに行くなど暮らしを楽しむよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時には、往診医の説明を行い、納得して頂いている。また、これまでのかかりつけ医との関係を断ち切ることの無いよう、適切な医療を受けられる体制を確保している。	ほとんどの利用者は、協力医療機関による隔週毎の訪問診療を利用していますが、他の診療科目やかかりつけ医の受診にも主として職員が付き添い支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、健康管理表などを用いて、都度入居者に状態の変化などの把握に努めている。また看護師出勤中には直接口答で伝え、入居者が適切な看護・受信が受けられるように支援している。また、日常の気づきも報告・相談し、看護師との情報共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には細やかな情報医療機関に提供し、本人が安心して治療を受けられるよう努めている。また、退院時なども、病院関係者と家族のムンテラに看護師と出来るだけ参加させていただき、退院後の環境整備などを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針の説明・同意を入居時より得ている。重度化・終末期を迎える入居者がいる場合には、管理者・看護師が中心となり、医師・ご家族と話し合い、都度統一したケアを行っている。	ホームは、家族の希望で利用者の看取りを可能としており、入居時に指針を説明して同意書を頂いています。ホームでは過去に看取りの複数例があり、職員は看護職員と共に実務を経験し、ホームの方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じて管理者・看護師から対応方法などのアドバイスがある。定期的な訓練はないが、実践で学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。都度、消防員からアドバイスをいただくなど、今回の訓練に活かしている。事前ミーティングや反省会も行っている。	消防署の指導を受けながら夜間想定を含めて年2回の避難訓練を実施しており、隣接の系列デイサービス事業所と災害時に対する連携体制があります。災害時用の備蓄品類も順次、揃えるよう取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、敬意を持って接している。また、プライバシーに配慮したケアを行っている。	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう十分配慮しながら日常のサービスを務めています。また、法人の方針としてプライバシー保護に重点を置いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話などのから本人の想いを聞き、自己決定できるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランも考慮したうえで、個々のペースに合わせた支援に努めている。起床・就寝・食事の時間など本人のペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や本人の希望した服装が出来るよう支援している。また、自分で決定できない入居者などには、職員から働きかけ、本人が気に入るような服装ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食器を使用している。また、食事後などは出来る方には食器拭きなどを手伝っていただいている。	食事献立は職員が考え、利用者の好みや病状に配慮しながら調理しています。一部の利用者は、食事準備や片付けを手伝い、職員と一緒に食事を取りながら和やかに過ごしています。また、外食や駐車場でパーベキューなど変化ある食事にも配慮しています。	献立は、職員が食材在庫状況を見ながら日々考えている状態ですので、栄養士による食事内容の栄養バランスやカロリー計算を定期的実施することが望まれます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分管理表を用いて水分量の把握に努めている。一人一人の状態を理解し、ミキサー食やキザミ食など柔軟に対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。一人一人の力に応じて支援を行っている。 また、月に2回歯科の定期往診を受けており、都度適切な口腔ケアの指導を受けている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、その人の排泄パターンの把握に努めるとともに、排泄の自立支援を行っている。 また、全介助の入居者でも、食事後にはトイレ内で排泄ができるよう都度トイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間間隔、食後、表情や行動など種々の状態に合わせて声掛け誘導をしてトイレ排泄を支援しています。これらの支援でパットや紙パンツから布パンツへの移行とトイレ排泄の常態化など排泄の自立向上の利用者も居ます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供や、腹部マッサージを都度行っている。 また、排便がない場合には座薬を使用するなどの支援を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間や、曜日などは決めておらず、その日の入居者の体調や気分によって入浴できるように支援している。	利用者の入浴曜日や時間を特定せず、希望に応じて日中に入浴を実施していますが、週2回以上の入浴を基本としています。入浴を嫌がる利用者には、説得や担当者を変えて対応していますが無理をせず入浴日や時間を変更するなど柔軟に支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	都度、自由に休息が出来るように環境整備に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を理解し、決められた時間などに内服していただいている。変化などがあれば都度記録に記載情報の共有を行っている。また、薬局から一人一人の内服に関する情報をいただいております、いつでも確認できるようになっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週に1回、1階2階合同のレクリエーションを行っており、楽しい時間が過ごせるように支援している。 また、ボランティアが週に2回来訪され、囲碁を楽しまれている入居者もいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段行けないような所への外出は不足しているが、少しずつ外出行事の支援が出来ている。夏場には定期的に外出や散歩を行っている。また、ご家族の支援で外出している入居者もいる。	利用者は、日々の気候状態を見ながらホーム周辺や公園の散歩、買い物等に出かけています。また、町内会のお祭り参加、紅葉見学や外食、駐車場でバーベキューなどホームに籠もらない暮らしの支援に努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者は自分でお金の管理を行っている。定期的に来訪するヤクルトなどを購入されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時には支援を行っている。自分で手紙を書くことが困難になった入居者に対しても継続して手紙のやり取りなどができるように、代筆するなどの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けの係りを作り、季節感がでるような飾りつけを都度行っている。また、清潔感が保たれるように、清掃・整理整頓に努めている。	建設後10年目を迎えた建物ですが、内部は浴室、トイレ、居間兼食堂、居室など総じて明るく清潔さを維持しており、トイレ内の棚にカーテンを取り付けるなど気配りも随所に見られます。居間兼食堂には利用者の手作り作品や季節の飾りがあって家庭的雰囲気があり、利用者は居心地良く過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が好きな時間を好きな入居者同士で過ごせるように環境整備に努めている。また、トラブルが起きそうな場合には都度職員が介入している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで通りの生活ができるように環境整備に努めている。また、入居時より、使い慣れた家具や置物などを持ち、安心して生活できるように支援している。	十分な広さがある居室には上置棚があって持ち物の整理に便利であり、温度管理も集中暖房設備に安心感があります。利用者は、テレビ、仏壇、馴染みの調度品などを好きなように配置して、ゆったりとした日常を過ごしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には一人一人の表札を入れ、トイレの場所がわかるように貼り出している。トイレの場所がわからない入居者の居室に、トイレの誘導パネルなどを貼り出している。			